

「京都市立工業高校将来構想委員会 中間まとめ」についての見解と パブリックコメントへの参加呼びかけ

京都市立高等学校教職員組合
Tel 075-771-1328
✉ kyotoshiko@sky.plala.or.jp

京都市教育委員会は、2011年6月に「京都市立工業高校将来構想委員会」を設置し、伏見工業高校・洛陽工業高校の「将来構想」について諮問しています。その「中間まとめ」【概要】が出され、裏面の通りパブリックコメントにかけられています。京都市立高等学校教職員組合では、一連の会議の状況をふまえ「中間まとめ」について、以下の見解をまとめました。

①「構想委員会」のありかたについて

- ア) これまでにも繰り返し「工業高校改革」が行われてきているが、その十分な総括がなされないまま新たに「改革」を検討・提言しようとしている。
- イ) 2校からは校長しか参加しておらず、現在2校で行われている教育・とりくみとその課題について、一般教職員の声や生徒の具体的な状況をていねいにふまえることなく進められている。工業教育・高校教育を十分に理解して議論されているとは言い難い。

②「中間まとめ」の内容について

- ア) 工業の専門科目に関する知識・技術の習得を目指すととりくみよりも、入学前からモチベーションの高い生徒を集め進学重視・エリート育成を目指すととりくみを指向しており、従前から工業高校の教育が担っている「ものづくりを通して自己実現を目指す生徒たちが学べる場」という意義を軽視している。
- イ) 昼間定時制について十分な総括をしないまま「見直し」を打ち出している。
- ウ) 「産学公連携」や「生涯教育の場」の役割を打ち出すことに重点を置く一方、高校生に後期中等教育を保障する場としての位置づけが軽視されている。
- エ) 進学に関わって工業高校以外の市立高校との連携を示唆しており、「工業高校改革」の枠を越える内容を含んでいる。
- オ) 40人学級の大規模校を基本に学校規模が考えられており、教育条件の悪化が危惧される。
- カ) 2校を「集約・融合」「再編」という内容が非常に不明確であり、機械的な統廃合を危惧させる。
- キ) 耐震工事など最低限の改修すらされていない現状でありながら、施設整備にコスト削減を過度に強調している。

③問題点

- ア) 工業高校が従前から担っている「ものづくりを通して自己実現を目指す生徒たちが学べる場」という意義について触れていない。
- イ) 工業科に多くの臨時教職員を配置しながら長年正規化しないなど、京都市教委の工業教育に対する無責任な姿勢には一切触れていない。
- ウ) 同じ校舎を使用している伏見工業高校夜間定時制について全く言及されていない。
- エ) 工業高校の再編に名を借りて、普通科高校を含めて高校統廃合を行うのではないかと危惧される。

裏面「『京都市立工業高校将来構想委員会 中間まとめ』についてご意見を募集します」へ、上記の問題点をふまえ多くの皆さんからの声を「構想委員会」・京都市教委へ集中しましょう。ご協力をお願いします。

〈パブリックコメントへの論点〉

- ・ 現場の教職員の声を聞き、生徒の実態にあった学校にしてほしい。
- ・ 生徒たちが、ものづくりについて学ぶ体験を通して自己実現を目指すことができる、従来の工業高校のあり方を残すべきだ。
- ・ 「ものづくり」に名を借りた進学偏重・エリート育成を目指す学校はつくるべきではない。
- ・ 現行通り30数人程度の少人数学級を基本とした、ゆとりのある学校規模が必要だ。
- ・ 学校の再編・統廃合は、その理念・目的を明確にするところから検討を始め、具体的内容について幅広い意見聴取と議論をふまえた上でなければ、大きな混乱を招く。